

R 8 年度DX伴走支援事業業務委託に係る企画提案競技（企画コンペ方式）評価基準

項 目	内 容	得点配分	
事業内容	【支援先選定業務】 ●公募説明会について、本事業の目的・支援内容が的確に説明でき、DXに不慣れな企業にも分かりやすく、参加者が事業に参加したいと思える構成になっているか ●応募者KPIの設定をメインに、多くの応募者の中から意欲的な企業を選出できるようになっているか ●審査会運営について、書類審査・面談審査など、意欲的な応募者を選定しやすい適切なプロセスとなっているか ●提案の内容について、実現可能性を有しているか	20	85
	【伴走支援業務 DX推進適正】 ●伴走支援業務について必要となる知見や体制を有しているか ●伴走支援企業における現状認識と経営課題の整理方法が具体的に提案されているか ●ITツール（生成AIを含む。）の選定・導入支援について、比較検討・導入プロセス・補助金活用など、実効性のある具体的な提案がなされているか ●導入後の効果検証や改善支援の方法が、データ活用やモニタリング手法を含めて具体的に設計されており、伴走型としての継続支援の有効性が高いか ●支援終了後も企業が自走できるよう、推進体制（役割分担・仕組み・パートナー企業の活用）が明確で、持続可能な組織づくりの支援方針が示されているか。 ●支援のゴールである「DXを自走できる状況・環境」への到達を確実にするためのアプローチが示されており、DX認定取得やDX大賞等への応募につながるレベルの成果創出が期待できるか ●提案の内容について実現可能性を有しているか	25	
	【伴走支援業務 プロジェクト管理適正】 ●提案内容がプロジェクトを円滑に回すことができるツール、推進体制が整っているか。 ●支援先、支援側、RYO-FU BASEとのコミュニケーションツールは適正なものを使っているか。（チャットツールが望ましい）	10	
	【広報物制作業務】 ●県内企業への情報到達を最大化するために、広報物（チラシ・動画等）の目的、ターゲット、訴求方法が明確に設計されており、事業の認知向上に効果が期待できるか ●デザイン・構成・コピーなどの表現手法が適切で、事業内容や伴走支援の魅力が分かりやすく伝わる、質の高い広報物を制作できる体制・技術を備えているか	15	
	【スマート化センター等との連携業務】 ●スマート化センター等との連携できる体制を有しているか ●提案の内容について実現可能性を有しているか	15	
実施体制（人材適正）	●事業運営に関する実施体制は適正か ●伴走する人材、事例執筆する人材は適正か ●複数支援先を希望している場合に、実施体制として問題ないか	10	10
事業経費	●事業経費の配分は適切か ●経費の積算は企画内容に対して妥当か	5	5
合 計		100	100

※評価点の合計が65%以上の者のみを選定基準の対象とする。